

と頼むのんや」

「ア、左様か、私は物言はずや、友達が皆そないに言ひますね、お前へ黙つてゐるな、チツと物を言ふたら如何や、怒つてゐるのんか、と言ひまんねが、男の饒舌りはいかんもんで、三言饒舌ると氏素性が現れる、言葉多きは品少し、私は至つて物言はずや」

「ナンノ、物言ずの事が有もんか饒舌り續けてゐるねがな、暫く黙つてゝ呉れ」

「宜しい、私も男や、頼まれたらモウ饒舌らん、併しあんた、是れ商賣か」

「まだ言ふてる、商賣やないが、極道を仕て食ふに困つて此様事を仕てるね、親は百姓や」

「ア、百姓か、何處や」

「河内や、河内や」

「河内か、河内も廣いが南河内、中河内、北河内、ア、あんた河内音頭を知つてゐるか、面白いなア

ア、貰ふた貰ふた、何貰ふた、風呂敷包で嬉貰ふた」

「オイ、ほんまに頼むで、靜に仕て呉れ」

「名前は、何と言ふね」

「角右衛門と言ふね」

「角右衛門やなんて、石川五右衛門と親類みたいな名前やなア」

兩人が饒舌つて居ります隙を見て、狐が穴から飛び出しましたが、そこは商賣人で、仲々逃しまへん側に有つた繩を取つて、ビュツと投げますと、狐にくるくると卷付きました、力を入れてグイと引きますと、狐がゴロ／＼と轉げて來ました。

「どつこいしよ、ハア既に逃すところやつた、依う饒舌る奴やなア、サア摺へたら、モウ何程なと饒舌れ」

「モウ、饒舌る事仕舞や」

「皆、饒舌つて仕舞やがつたんや」

「モシ、とうない大きい奴だんな、乳が下つてまんな」

「フム、牝や、子供の餌を拾ひに出依つたんやなア」

「モシ、なんや頭を下げてまんな、何を仕てまんね」

「言葉こそ言へんが、堪忍して呉れと頼んで依るね」

「可愛らしい者だんな、モシ、堪忍して遣りなアつたら如何だす」

「私かて此様な殺生は仕たうはないが、食へんが悲しさに仕るね」

「モシ、私の顔を見て頭を下げてますで」

「お前に頼んで、堪忍して貰ふて呉れと、頼んで依るね」